

住み慣れた地域で暮らしていくために必要なことについて

事例の世帯が住み慣れた地域で暮らし続けていくためにはどうなればいいでしょうか。(居場所などの社会資源、連携・ネットワークなど)

グループでどちらか1つの事例を選び、その事例をもとに自由に意見を出し合ってください。

討議のポイント

“生きづらさ”や“暮らしにくさ”を抱えた人に**周囲が気づく**ためには、どんな人や場所、機会があるでしょうか？

“生きづらさ”や“暮らしにくさ”を抱えた人が、**地域で孤立しない**ためには、どんな人や場所とつながると良いでしょうか？

【参考】 地域を見渡すとこんな活動者や団体、資源が存在しているかも知れません

- 民生委員・児童委員
- 福祉推進委員
- 自治会
- 老人会
- こども会
- 自主防災組織
- ご近所さん
- 福祉施設、介護事業所など
- 医療機関(歯科医院、薬局など)
- 行政の窓口
- 地域のつどい場(地域食堂、カフェなど)
- 体操教室、趣味活動のサークル
- さまざまなボランティア活動サークル
- 金融機関
- 宅配業者(飲食品、新聞、郵便物など)
- 飲食店
- 商店(小売店、スーパー、コンビニなど)

事例A

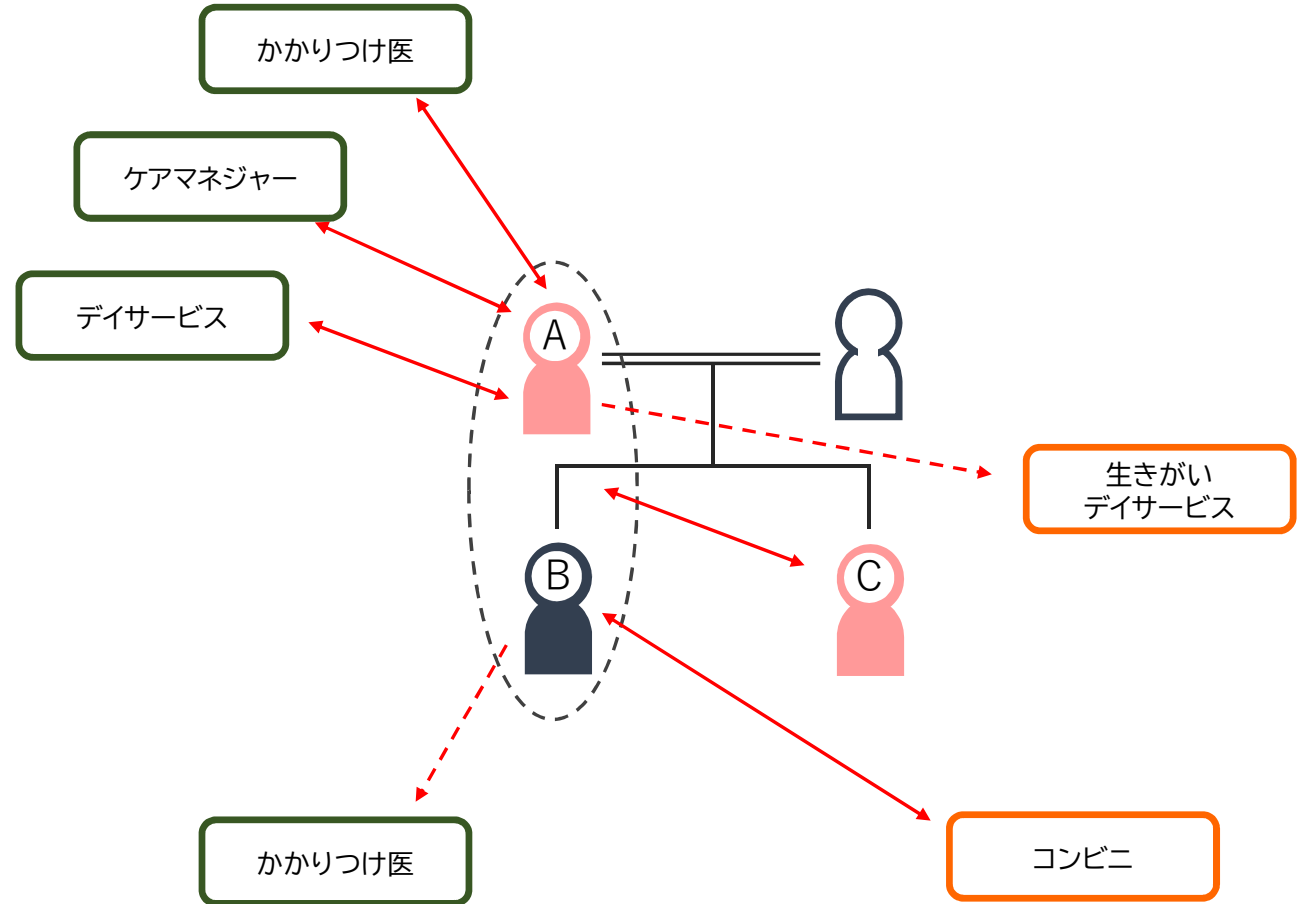
80歳の女性と55歳の息子の2人暮らし。約3年前に夫(父)が病死。持家。約13万円/月の収入。夫死亡後、近隣との付き合いが減り、現在は地域でのかわりがない。

Aさん(80歳、女性)

- ・ 夫とは3年前に死別
- ・ 約2年前にアルツハイマー型認知症の診断を受け、その後に要介護1の認定を受けデイサービスを週2回利用中(訪問サービスは拒否)
- ・ 杖をついてかろうじて近所には外出できる
- ・ 他県で暮らしている娘が2回/月程度来訪して通院や買い物をサポート
- ・ 生きがいデイサービスに月1回通っていたが、認知症が発症してからは通っていない

Bさん(55歳、男性)

- ・ 大学卒業後、勤めていたが、約2年で退職
- ・ その後、いくつかのアルバイトに就くが2週間程度で長続きしなかった
- ・ 父と妹のすすめで過去に一度精神科を受診したが、その後の継続受診に至らず
- ・ 夜間は一人で外出し、近所のコンビニへ出かけている
- ・ 日中はほとんど自室で過ごし、母親Aさんから尋ねられると「はい」「いいえ」ぐらいの返答がかろうじてある



事例B

約10年前に芦屋市内に転入。Cさんを出産後、シングルマザーになり現在は子ども2人との3人世帯で生活している。長女Bさんの教育支援資金の利用相談で社協でかかわりあり。世帯収入としては約20万円/月(給与約15万+手当約5万円)

Aさん(39歳、女性)

- ・ 介護職(4日/週パート勤務、午後6時から翌朝10時頃まで夜勤)

Bさん(19歳、女性)

- ・ 専門学生(美容師)
- ・ Aさんに代わり夕食の調理、Cさんの世話などを行いながらアルバイトを2回/週行って自分のお小遣いを稼いでいる
- ・ 小中学校時は不登校ぎみだった

Cさん(8歳、男性)

- ・ 小学校2年生
- ・ 小学校1年生の秋頃から不登校(給食のみの登校)となるが、友達と遊ぶことは好きで、友達が学校から帰宅すると近所で一緒に遊んでいる

